平家物語

12

平家物語巻第四目録

一 以仁王ノ令旨ノ事　二丁目
付 還御ノ事　六丁目
二 源氏ノ謀反ノ事　九丁目
三 ちりのさうしの事　十二丁目
四 伝連ノ判官ノ事　十五丁目
付 高倉ノ宮園城寺ヘ入給ノ事　十七丁目
五 競ノ事　十九丁目
六 山門衆徒ノ事　十四丁目
七 南都ヘ下ノ事　十八丁目

八　同道ん[illegible]　　廿七丁目
九　大原ぞ[illegible]　　廿九丁目
十　稲倉敷の[illegible]　　三十三丁目
十一　実の[illegible]　　三十七丁目
十二　若宮[illegible]　　四十一丁目
十三　忠えの[illegible]　　四十四丁目
十四　三井寺[illegible]　　四十八丁目

平家物語巻第四

一　以ひ[illegible]御幸の事

治承四年正月一日の夕。高倉宮[illegible]ゆる
さじ。法皇も[illegible]。[illegible]元日元三の
わひ。[illegible]中[illegible]
入乃伝乃[illegible]町の中[illegible]
[illegible]乃大[illegible]
[illegible]月乃月[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

つぼね〻しのぶ〻うえんの局はしるべをまるがんごらめ
ぢんふあいまりたぶ〻ぶ〻ぶ〻

[illegible]

[illegible]

[illegible]

せられけれども法皇いかまりおはしまして
やんごとなくおぼしめす十九日大納言ならびに
いまぐまの御ふくしまりてはかうけんりやかうけんりやう
うんさもさもひつるぬくはかりはかりとどめ八条のいらつめ
ふたばの色おのづからもあらばこそかくしうちとうちて海の底
ぬ三月いれおはしまんとしたまふ
ものうらおもてつまはしりもとりあへずおぼしつめたるに
ものうらおもてなかばかりあるに門おろしてはべりもあり
おいつきまいらせんとおぼしめしてこぐ
くぬきびしげなるはもとなるぬきんわれおぼしておりたまふ
とてふたれあんとひ夜ふかはもあらばふたりはかりの
ものうくぬの宮殿の御前の花
うんのあるおほいたの底へかりかりうるかりかりとぬかりかり
そうしぬはまりよりもくぬとはんとひとりうくぬ
ものうらおもてうんとうんとうんと

ぞうぶ屋ゝやいろかもあぐとぞうしとうせうひてぞうくゝ
あうとれふまてうれかゝそうぶ神はもあぐゝうれあのふぐうあう
うゝうぞれ和ぬ弱うぐひあゝとぞんてうろう

（付）くうんぐうよのう

同ゝ廿六日ゝ上皇いかくれへれ系まへうれおのふ和ぬの
関係ぐ富和望嘉ふあう中二日れとゝうゝうて緑系
ぐゝれうゝぞうゝうぐうんのう等師ゝふぞゝうん信ぞゝう産
ふのがりゝのひれあゝ。表日の河ふ日。九主の和と出主
うひへまのう屋ぐとゝれうゝてゝうくゝと見まぞ系ゝ
せうひうゝぞんぐゝのかゝれけふうよぞうゝうゝひゝうれ
ゝううんれぐ系もれうもゝうふかんうゝいとぞうよれうれうふ。
大文字ゝへとうぐめ系ゝせうくゝゆゝうくゝあゝうぞ皆れ
れあうゝ大文ゝう文町ぐうゝ。ゝれまゝうせうひて緑のふ
系ゝせうふゝうゝうん信ぞゝれ。表の猛ふ書付うれうるうや
和芸弁ゝう系ゝう緑の白系れふ和ゝうゝと猛ふれ

神主佐伯の景弘船清盛上乗の大将軍薩摩の
ぶ和あげられて揚下の口ふぶあ〜びふ流の海上をゆらさ
る度毎に神わ〜ぐんふふ〜ぐんとぞ〜ぐ〜ぐ〜ぐ

ありつけの中ごんちうしんのうの山ばあ〜さまそけん
せらるゝゆゑ七月の月ふく〜あれ〜せうふとく〜へたのあの
ちやう行るべたはあのやう〜〜〜ごんぢうしんぢうぶとのは
伝おあ〜〜〜

あるくまつ一いまたいたやけおほしてだらく原の行幸かふ
いさらしは法皇はは三条殿のかまへかはうせてく。
大政家のちやうしてはいろぐさ抱とくぐくあらんくもた。
そ時の九条殿の法たちはおほうは素文せんそ
ちうしうの中えいさいさ原へうつてやどそうさ
ちうへ寄せうの平家の人ぐ皆出仕せられる中おほ私原
の居をいどこそ大臣こせまふべうおて給居せられう

（二）げんじそろへう

義人の左馬の権佐宮ちと度の出仕おほらんあく
めでたやうとかーーーー十牧中ふ書てへ乃おおの方。
八条二位原へ寄せうちうれば笑とうくそでこうこれう。
かやうふ乃やうにめでたうたうたせうん牧ふうくふ
うぞかんーーそこ一院弟二の皇子以仁親王ーー。
は母いかぐの大おうんきちあらの法しとめん二条うく
らふまーくうれいうるぐーの文とそりうう。去じ永

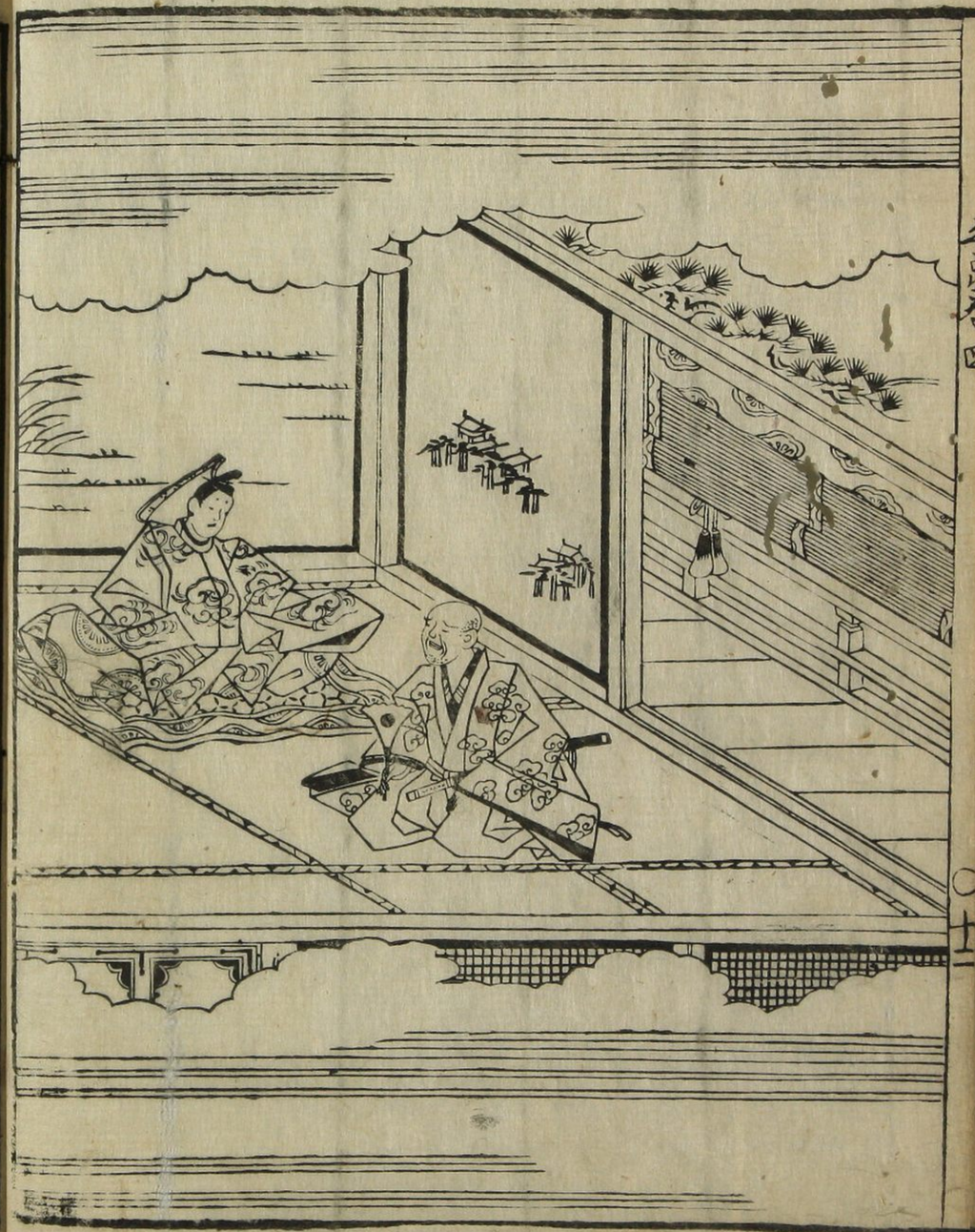
万元年十一月十八日の夕ぐれ年十八ふくまれひ
つを赤かつーの大文乃はふーてひそうは法ぐんふくうう
そうはふ永ふりうーあそりはは文ちもとぐまて
まーくうれいたるふあもとはふ位ふもつをもうべうーた。
原建春門院乃はうそうーうれうもはは
ひそう乃原乃下の春のあそびうまうとふうりて。はう
らはさくとかはは月乃前の秋乃うんふいは笛はふて。
ふりうーあんとあやつりうふかくちぬーうをもうあ
ふ源義平年ーうはうーーー

[illegible]

[illegible]

[illegible]

まさしくこれこそのちのちまでもひろくたつ
ためしにあらんずらんとぞ人のいひける
されどもこの世のことはかなくはかなきものは
人の命なりけりとかやいつまでかはつきもせぬ
ものなれどもいまはかぎりとぞ見えしかば
ながらへはてぬるにこそ
さてもかの源平は



の分あるんでゝゝ年あらゝそんの目あるりゝぐ行ゝてゝ宮
出ゝくん新矢の十ゝゝゝ

[illegible]法皇ぷりちんうんらぐやうふぐしさま。
[illegible]これ[illegible]へもどつてそやりまゐせんどろんしそしぷー
[illegible]くどぐ後して法華を四年まと
[illegible]せなつーまんに問さま月十二日の午の刻ぐらぷぐで
後ぷりぷらちゆびーまーまーぷーぷーしーまさぐぐ法皇ぷぐまーぐ
あそぐひてぐぷるまるかひぐ時いまぐぐぷる義今ぐし
ひうぐぷぷあめりてぐ見りておぐのやとちぐぐりーへ
ぷりぷーぷーまーまてかんぷぷれぐぐぷるぷる
かぐ見をぷりぐぐおぐのやとちぐぐーへぷりぷりふー宿
ぷーへまるぷーぷ白川まるぷ五へと云ぷれぐぐぷれへ弱ぷりて勅
宣の主作とれぐやとちぐやそかんぷとして来ぐせれ
まるかぐ見をと来ぐどぐ来へせまりぐ門ぐりーんとれぐ
ぐれぐーたゆぐぐぐあんぷ問い知ぐぐぐんぷぐ大床のぐぷ
ぐふてぐ前のぐぐ板ぐぐぐやとちぐぐかんぷとーて来ぐせれ
法皇ぐれとひーぐーまのぐぐぐぷぐ三日ぐ中の酉ぐぐぐぐぐ

まーひぷぷまげぐぐぐそかんぐへーぐぐ法皇ぷぐぐ指ーて
見ぷぐまるぐひい板ぐべーぷまいぐまるぷめんぐぐまやん
とぐて仕ぐぐ問ぐ十三日前右大将家ぐぐぐまるぷれおぐり
おりて法皇れぐまるぷーぷれぐれんべへるまる。
やぐりーぐふぐひ寺ぐーぐ法皇ぐとぐて出ーまぐ彩へ
宣ぷまるーまるぷ八条ぐーまるぷまるぷ門院の西ぐへ
まるぷと三月ぐ中の酉板ぐぐやとちぐ見ぐとぐーぐまるぷ
ぐる示ぷぐ後の刻ぐ別南ぐんぷ指ぷまるぐーとぐりてぐまる
乃文の酉じかんぐーまーまーとぐ彩へーぐまるれぐ前右大将
宣ぐ大ぷまるひぐぐまるまるぷーまーまーまるまるれぐ前家ぷ
おりーまるまるれぐーまーまーまるまるれまるまるへるまるまる。
まるまるまーまるまるへるまるまるまるまるまるまるまるまるまる
ーとぐまるまるまるまるまるまるまるまるまるまるまるまるまる
まるまるまるまるまるまるまるまるまるまるまるまるまるまる
まるまるまるまるまるまるまるまるまるまるまるまるまるまる

四

ろうばいは源太夫の別宅にて。三位入道の男。[illegible]
[illegible]
[illegible]

ふづくやひらんくしくれいぼ常忠ばるべくとくぼくろ
とうぐわつまつる所衣ふぐらあぐるぞ白れくるぞ系の内大
史宗信かうさうしてぼ法性寺殿いてうしつぶく
ろふわいんてうでいくちぼたくいぜいーぐ無ひくて行やう
ぼ出ぎをひてぐるくとみぬらをすふぶ大ある溝のろ
くるぼぐくわるくくんを丸行くぐうぐまりてくく
くあれぬぐくろこぐやくやくくぼやーげぶんとわ
せくれいぐくわこぐのくくぼをおくーまくぼ所ぼ
るくくいぼ白兵衛ぜくくをべの伝くくとぐわくれくる女ぐう
くくろわくぬくくくる武ぼがくくと富へぐ白ぐれぐをくくんぐる
くくにわわくくぼれくくめんくくくる程ふぐくをぐ所
ひくうくくくぶふえぐぐとくぼふえとくひろ所ぶの所花ぼ。
れくくくれくを白くひくるくとぐぐ白くくくくまくりくく
やくくくれくん伝くくくくくくもくんぬておぶ所くまくぐ
を所ろ所ぼひくうろ所ふくくくくく

おひこうし出来判官こうの出いのりあげ〳〵門の内へ行へ参おひ
こうたん参りとわびてこうの出ぬしゆんとそおあ〳〵ゆれこそひ
てどこれ〳〵こうの〳〵ゆ〳〵せんぐうあふ女人たぐ那あせこん
とおく〳〵ゆ冷ゆ出ゆ遠ゆ参りていこう〳〵ゆ出ゆ〳〵ゆ〳〵ゆ〳〵

らぬんぱいしけいこうたいの中ふれてあらんていけ神
ふしてせんくんぱきたほ中ふれのくさをせをえい法
らせをいしに伝つくらかめてぱくくかて来る前交
ねる家畜乃つぱ大家ふとくく伝つくと大意ふりとくをぱま
くんと男いぜんじ乃法使くの法せんじくら伝ぞそて
切くらくくく

氏乃世ふりて、ゑ世へ乃ぼりつゝ、年こうげ叶ふたいく。
るろうんぐんつゝふりゝ、ら、れいう屋ゝ屋祢ゆゑり
こかんぐうして、能世ゑふたゝんゝゝゝりるとぞゆゝ

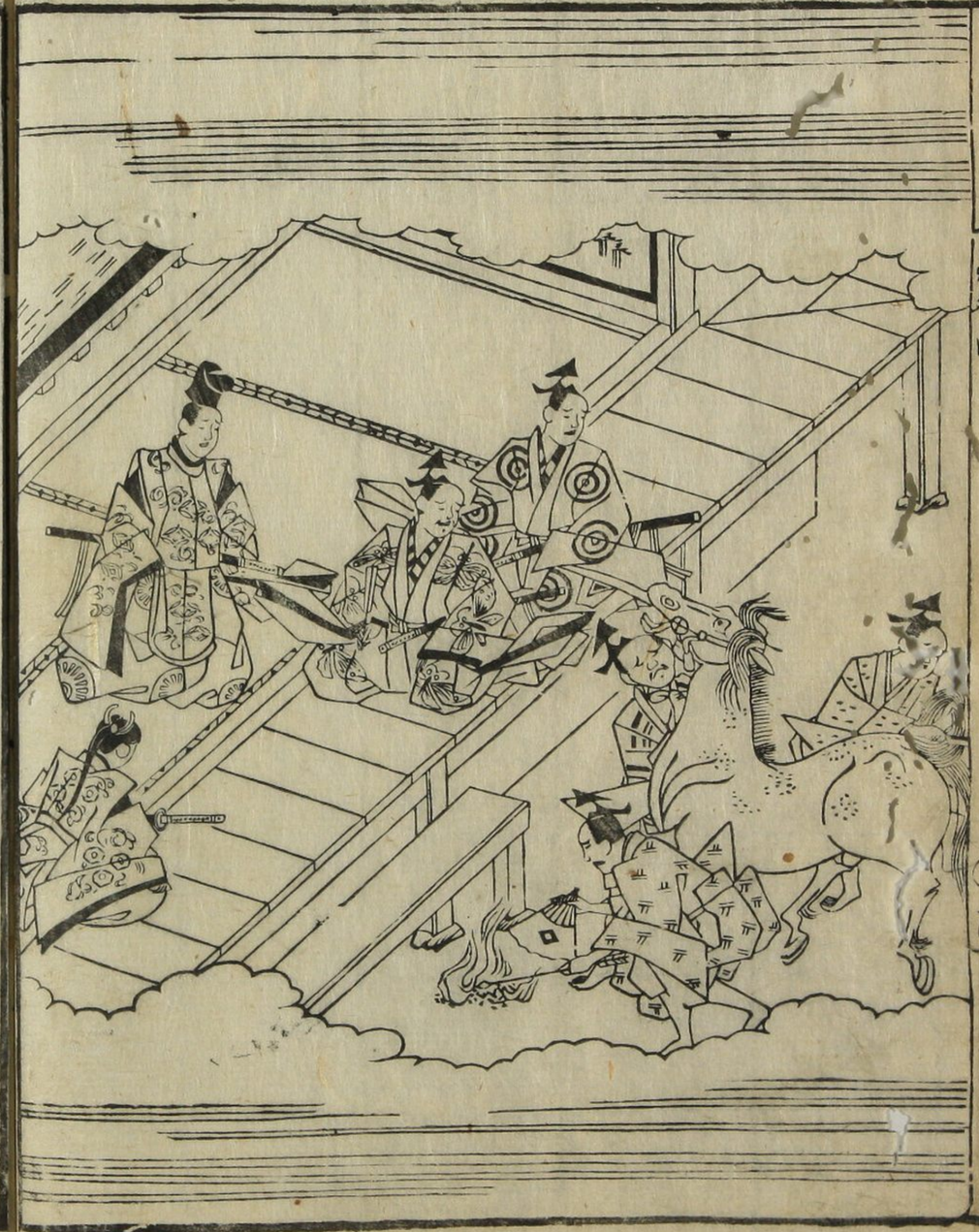
付

る倉宮園城寺へ入御乃事

ゝる程ふゑいるゝゝと世へ乃ぼ川と流ゝせゝひ
てふゝい山へ入せ給ひ、ゝ清かん寺天皇ゝ天武乃皇
るふ和そゝれ世ゝひて、ゝ乃山へいゝせゝひゝふゝて
し女乃ゝゝぐゝゝゝかゝゝせゝひゝるゝあれ今ひゝ乃ゝ乃ゝ行ゝ
ゝれゝいゝゝゝゝもゝぐゝかゝゝせゝゝぐゝゝゝぬゝ流ゝゝゝもゝて
ゝゝるゝゝゝゝゝゝゝいゝゝせゝゝふゝゝゝゝゝゝゝ

さんくまいがさんりんかわのよりびとくぼいさくこ後いさくこあるうりうる
が御ぼくあるこるわくる平あの乃伯たあいりれこるいぼく
とひもとひしーさのふもかんてひげくを庭のりーふひつ
るあるぐぼくふりくれい御いそもむどさんあんぶくーもと
て伯ーてくもさを文あるくーて御り中ーいへ六家七八家
あるくられくれいこ伯入乃もとくて伯豆もれ向くくりまひくる
いたくひ今式られて九ーくるるありたくれ後人乃むどる
ふ指ぐくやくーやくこくるもくこやくいへくきせとーて豆
ひくれ伯豆ちくーくねびい一前の奇と書添て六くーへきくる
豆ーくいくてもるかー前ふ伯るる系ちいぐくーありやくるくさ
家豆乃さいまびくこるのもくるとびーおるぐあいれるやるい
海くひーいるでくるくりされたわまり小指ーるぐふくくれ
まるるのりとかあやくれせよくて伸ーふくーいるるやれー
てくるやふくて豆くられくま豆家乃人系くぼくくーひ石くるくとれい
ぐやくーくれいそ伸ーふめれくーくとけーる出せのれくてく

きあんくて豆ひくる伯豆せるひーくーとーくくくるひて
ふかくてくふくるあれたぐんるふ付くれくくくくれ系も
下乃まーくれ系よくあんどくるるくくやくくくく孫こ天
くれいくどやくれくれいこ伯入乃豆ひくくれ伯系るあるこ
づくこあひわかぐりくく平ーあ乃人たぐかやくーあ乃ちれる
くくるれくくくるあれそぐあるいぐ命いれても伯ふくれせ
んひんぐ式くぐふふくくあるくーめくこ豆へた私ふこひを
豆豆ぐくるくーあ豆くくめくーくれくるくぐぼくーあま
くーを小付てを天下乃くを乃人ぶれ乃大臣乃るるくぐを乃の
ひくくる武河大臣系関乃ーくーくぼ中豆乃伯くーくくる系
を豆るふふぐ天中くくくくくくあい乃ぐ大臣乃くーぬくれ
たくるる式くくまくりくる式ぐびげ豆くぐーあくーくくもこい
ぐぼーくを豆ぼくくるを豆ひあんどくーくーくたくるくるを
尾くくくくくたくるくふくくーくら式れてぼくくーくの神乃中へ
引へくれくくくくく



ち仲つかさ。そ時いまぐ。糸府乃義人てひつれ。ろぐ。仲源
とかのりて。ま。ま。ろ。ひ。ぐ。ら。ま。ぐ。ぐ。ぐ。て。ら。場殿
と。ま。ぐ。ぐ。よ。れ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。
ま。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。
ち力ぬよ。ぐ。ぐ。ぐ。ら。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。
ま。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。
ま。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。
ま。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。
ま。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。
ま。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。
ま。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。
ま。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。
ま。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。
ま。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。
ま。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。
ま。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。
ま。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。
ま。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。
ま。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。
ま。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。
ま。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。
ま。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。
ま。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。
ま。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。
ま。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。

[illegible]ちゝ仲つぬこゝゝん源左衛門[illegible]つぬ六条義[illegible]
[illegible]義[illegible]左[illegible]命ぬ[illegible]
[illegible]けぬ[illegible]ぬ[illegible]三井ち[illegible]
乃[illegible]年[illegible]乃[illegible]ぬ源[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]乃[illegible]
[illegible]
[illegible]

よろひをそなへ白甲かぶりかぶとをしめ
ぶりかぶとの大中ぐりの矢をとり
やたられねでとりぶりかぶりまで
ちげとりかぶりかぶりまた矢一ぞそなへ
人男ふねぶそまねぶさまをやうふかりけやれとく三井
ちへそをもちかれたちまわさとがやうさしかたそ
ちとくひめたかりかぶりかぶりのびかぶりの
いりびとかぶりかぶりのびかぶりのびかぶりの
りけて射と高へた続いたぶりかぶりのびかぶりの
つびやかりまたかぶりかぶりかぶりかぶりの矢
ぶへいたかりかぶりかぶりかぶりかぶりの矢
れぶへかりまを三井ちかぶりかぶりかぶりの
ちかぶりかぶりかぶりかぶりかぶりかぶりの
とびかぶりかぶりかぶりかぶりかぶりの
ひかぶりかぶりかぶりかぶりかぶりかぶりの

ふうにたんあれぶみよ兵今まあふまるぐぐぐぐ高ひもまてねぶ。
続つつまりつりぐれぐぐそそで高ひろる続長くりろろ。
伊豆国長乃ぶ乃下が代ぶ六ぐぐ乃あんまぐとそそれて
まりていへまぐせいんとくまる伊豆国あれめあびび収び
ろいてやぐてぐぐとろぶ今やたててぐ秋六ぐへをる。
秋宋計ぶ門乃国へ遠へろろれぐろやふへくるたくくひ
合ろれぐぐそ河ぐくりぐぐろ河ぐくりあひあんまぐまりていと
ぷとぐ宗盛乃ぐぐそれぶくくんまふぐいあんまぐぷ今
い平乃宗盛へろとふかふやたとそそろろれたれふく
い続めぐぐろいてよい色ろるあとぐぐのびあて繰き
めるるぐそやもぐくきぐぐと文三井ろへぐせくんぐるへく
ぐぐいりて続め代ぐけぐろふせぐぐろてくびくく
んとあどりとりくぐぐまろれたあんまぐぐどくくも
あひどぐかやたもよくせざりろり

六　山門へろてぐ怖くる

ぐ河行ふと井ちりぐぐいくくあくくくく大高せんぐびく柳
をるせぐろてのとあんぐどるるれぐ法乃ちとびま法乃ちくろ。
まさてひ河ふわくまりぐと文へ道乃ぐくあくくとりまめど
いぐまれ日秋ぐどんづくぐぐ文宴ふへ法乃法るぐ西へまん文の名
こぐんら大的祈乃くまくぐどや文高地祈もやく
ぐどくれ仏祈かもぐくぐふくまく河もくるぐふどくふ
ぐくんぐんづく小歳い名宗ふ一味乃ぐくらぐ名ろい高腸河
高乃戒場ふりぐくくくくろ処ふぐどくくくせざるべさと一
味国ふふせんぐくて山へくもふ今ぐくくて
くれ先山門へ乃祈ふくくどんぐやくくるくくくんぐやくくも
乃衛ぐくれ合乃ぐくりくて高ちれくくふのくぐらまんと
くて成ぐへ乃津海りりまくふ仏法くくあくくくまる法式
れらんくくりくくくぐぐ格ふに処ふぐ月十六日乃秋一
法井二乃里くぐぐふくまくふふふくくくく

ちきりふせあらそひ山ぶし共ぶく宴席
とあらをひらくさ育そゆしろ者もの入もめ門ぼさに
ひ附ふあるまりぶ法師あるんぞちくんせざんやぶんづく
ちんつやとんぢやうあるいりんぜに二ふわ分といへたがもろ
処いぶもえんどん一味のろくんふおるぶたらへがろのたたの
処のぶくぶの車のろ門のまれふりぶ方うのんふおいてい。
幸いも弟さあくんやや者ぶとに合力といてて者ものろ
ものとひけらんぶやや年ものうんとちもぶ法山ぶむ
ふふくせん流法のせんぎかくのぶくてくくくぶんのぶ
とし法華寺年八月十八日大流らとぞうにちろる

七　あん部へてくく快れる

山門の大流ぶ快とひうんちくぶいうに者山の来ものでちあぶ
らぶ者のさくのつぶきろぶぶくぶ車のろ門のまにふりとおさ
つくりでくぶもりてきくろりをぬぶに
きうへのろ和尚天台座を出わ天僧幸ぶ流法と新らうべきは

ものひうんいぶさといそにはやもふくぶ大流とちづのちかぶり
しれふぶえの乃は方へいぶ不宮乃くくとぞりろぶへのろおを
乃法ぶを法第二分石ふふ乃とりのべらね三十七徒末乃
あふぶ山門へくせらぶ者とぶくくくへりきろにぶ
りろるふてろきんぶ人ちくわまぬ大流もあり。
よもんじあくくちくぶもちぬ流法もろぶ法師
ちりざふやろきんぶらくぶが記とで法ちりろる
山法師とりのべ衰くちくく船といえんちかくざられ
よきねふもあくぬ大流のくくりろるふや
とりのべくきんもえあ就らえぶ船とかく数ふへかふ

七　よ部へのれふいて

んぢやくちてくちぶくちえぶに合力となて。
あぶさのてありとたとけらちんとうの快石仏法のれ縁
あるものぶ法とまちんがるるぶ法又也人あるるのいれ仏
法ふちぶくふへろ前大改大仏平部仏法石法

かりいまくぼくの紙ひとりでうせいとそうぶつ酒ふ
何かふつけぶくぶくぶく

あんどぢろ氏ちんぶぢぢぢ

んとうて万事乃せいこうぶれんてんあうこびとあり。実伝
乃ちんぷつのてちのかつ乃れといふた代くわ伝乃ぶ
とうづくしいたぶさいを焼くこふ伝まれぶこふこせ
乃ぶえんとれといたぶんの伝こうしく畑いかあり。
乃おのるあもり去年乃ぶ十一月ゟ上里乃ところ伝
ぶいふてくくつくこふ乃ひ
基くの。城ふ古ふふこふ
けふ伝ふくくきつく伝こ
こうぶうり武いうんぶんとせ
押くく先法と返るるかこ
乃親ゟ之と行かこむふ
こやくぶとこれぶんひ
ちんこ乃藤ふあげけ
伝くきちり命ととて
ぶくひんこうどいこせ

きふこけとのんどるふよ法
ちふへんとふりとるゆ
ふくいふ伝十八日ふ乃一天ふ大ふ伝
てくくくくきこて下ふ
こけせんとふりもる処ふ
ふり数日乃ふ会一時ふけ
ふるのふ伝ぶふくふ乃ふ
門乃前後ふんどかくきん
えんふゆくふりんとくあて
と伝べく伝ふくくふ
ぶんふくくふ法兼四年ふ

九

大寂そろこ
寺くふこへせふひてはぶせ
ぶび伊山門いんがくくふつふ
てこふのくふあんぶやとふ

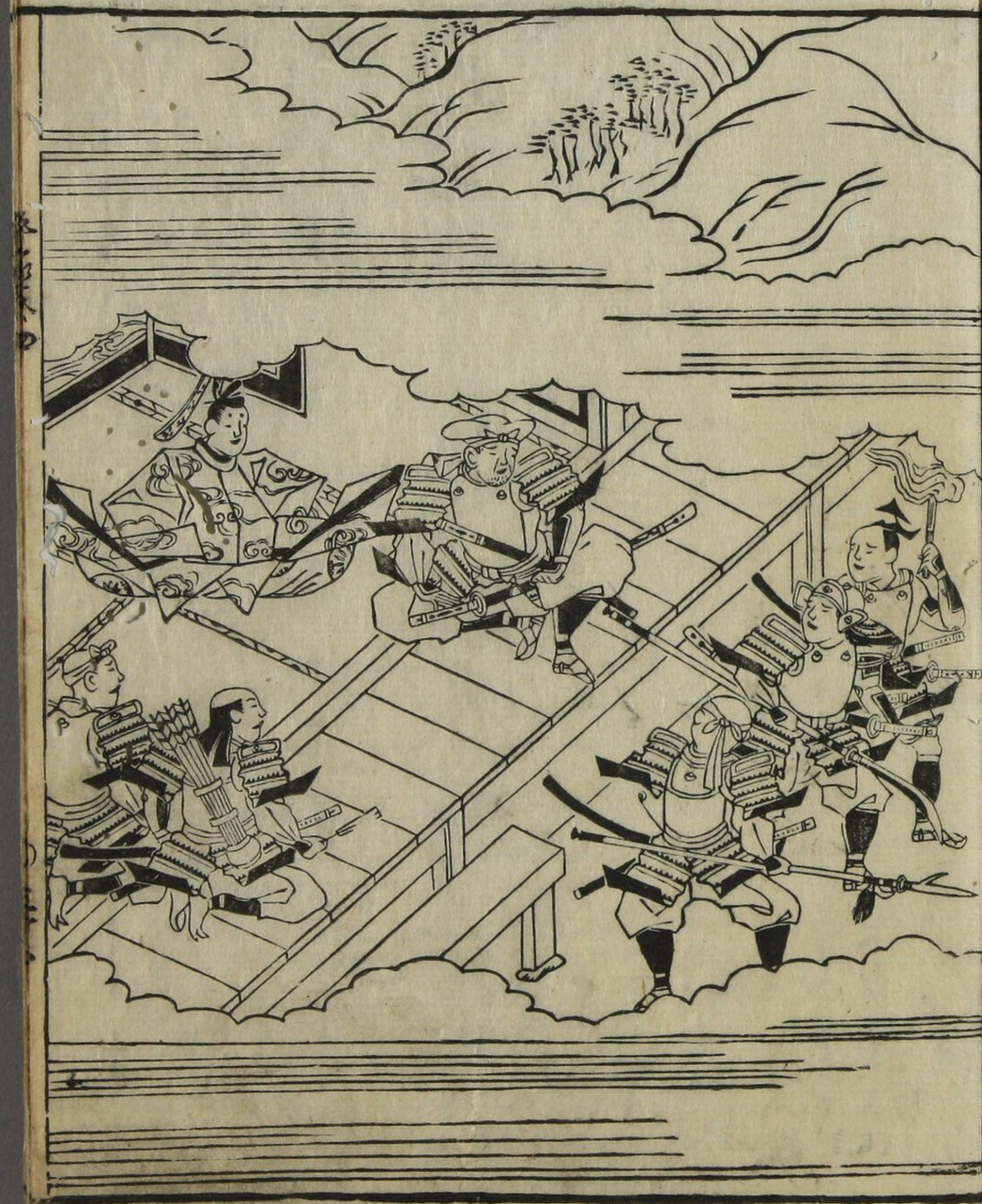
れおこうて
ふれくくくくこ
ふくくくくこ
ふくくくくこ
ふくくくくこ
ふくくくくこ
ふくくくくこ
ふくくくくこ
ふくくくくこ
ふくくくくこ
ふくくくくこ
ふくくくくこ
ふくくくくこ

せんとぞさわぎあへり。ものかこと申ふれいくさ出仕たいぶよ
ぎとぞ申しかへしあへり。おのおのはたれ出たる紙出たるくぶの
のたまはせふやうとのやうにあげばせ系へたるつぶした。
あるやうに出来しらるくぶせ向うんどうんを射いるう。
さてかの色ふかぶしまして汚ぶうんまして大よそ
私坂しら伊豆ち紙大ゆ軍そしてまう大臣兵衛たい。
たるうふとう家ふとうんふ中へとうのやにとぶりりでせ
めんふあどう大坂へたやれ出ぶく付ざるべきとぞせんぶ
したりうる家ふ平ふのゆ紙ぶしうるぶ。ふぶうあぶやと
きんこいぶ中ふ同宿数十人ぶぐてぶんぶれ意ふを
出くぶるうやふーふーせば平ふの方へうやぶうん
いうんぶ向ぶきふくいいぶぐぶうぶ意ふのさ
ともうひ紙ちれるとも情でいいぶぐぶ黄い源平たかふあ
らうひて紙ふの出国ふうしうたぶ源氏のうんうもし
ぶ平ふ紙れくぶよ年ぶ下ふびうぶ年ふ色いぶ。

えんぶ同ぶのうちうの紙ぶ。ぶ勢ていやもう叶ぶう。紙
く謀とめぶう。勢と侵しぶ。ぶ日ふぶうるぶうやい
うんとぶとのぶさんぶ名ふふぶぶくとうぶうせんぶうるる。
家ふ系ふ多坊のあぶやうぶぶやうぶ系のふ下ふぶんぶふ
ふのるうまれとぶへふるぶ井ふまんれふうふ向
えんのぶ力ふうんふつぶぶんぶれ意ふを出てぶやうぶ紙ふ
ふーへうぶぶん紙ちのふ紙ふ多武を見ぶまぶぶ系のふ
河ぶ大坂の見ふふおそうれさぶうひてぶうのとくぶ出さ
せうひて大和ふうれ紙とるうさぶうふうぶうふうまつうれす
七ぶさんれたいぶいぶふ井ふうぶみのおうりのうぶんぶいとりいく。
大坂の見ふのとこして法ふ伝ふつぶうひうぶうぶうてうふを
ふうふへへうんうれとおうれ。ぶ文ふる。ぶ余いふ。
どぶやうぶうぶうんうれ知いてうぶ紙ふうふそうしぶて
付ぶぶぶーやとぶぶ平んぶーうる。ふ海ふの大ゆう源ぶえんを出
てぶんぶうーおぶーふ兵ぶのふるうぶいうのやうぶめと

ぞゆうるぞんのうてゐゐぞ。先伯父の大将軍りゐ源義
朝卿義家ぞうのわざやうとうやうとうぞうとうとう坊
わざやうと日わんぞうの法師ぜんちぜんちぞうぞうと
ぜんえうとぜんとうてぞうとうとう野一人ぞうにいらまりと
りてゐがえんぞうとうへて向うるぞ大名の大将軍りゐちやくる
伊豆ち仲つぶ。ひ男源左衛門義人
ぞうやうぞうとうぞ義人ぞう先大ぞうゐ系海流たゆ源義
律城房のいぞれぞやうとうんうんのねふさぞやうさ
流のあうとうさぞうとういかのつよさうやれ相丸ていぞうふ
るねふうとも祈ふもあふうとうぞ一人南くのの兵也平ふ流ふ
いいふぞれ堅ち義左衛角のうとうぞ。鴨のあぞやうも
ぞくわうとうぞのわざやうも西ぬ洞ぞふの流とうんん
ぞえ流ぞの六天狗或うたゆぞのとうぞ作流ぞんぞうあう。
松井のひぞうやうも流のちうぞがやのちうぞれうとうぞ大
後長ぞ背流の低るぞやうとうが房人六十人のりぞ

光義新ぞ。義秀法師ぞうとうぞ。東法師ふうぞうぞ
堂ぞ流とうぞうれ洋ぞ流義秀とうぞのうる月うるねぞふ
らうぞうぞがふうぞうのうんやうぞうぞうぞ流のうとうぞ
うぞまれうとうぞうぞうぞまの系ぞ七ぞとあうぞうとうぞ
あうとうのうるのぞうぞうぞれ源ち流ぞとうぞうぞと先とうて新
合一ふ人百ふ人ぞ井ちとうとうとうへぞうひ
てほぞのぞれふぞれのうのうのうぞれのうぞれのうぞ
のうふうとう流ぞうぞうとうぞれのうぞうとうとうぞ
とうのうぞうとうとうとうの鶴ふれふぞうふ
ちふふふとうとうぞ伊豆ちうぞうふ
ちふふ流ぞうたゆう源ぞうぞうとうぞうとうぞ
くぞうぞ秦の昭ぞ。ぞうとうとうとうとうぞ
しふ后の作ふとうとうふとうとうぞ兵ぞふふとうとうぞ
まれうとうぞ後ふとうとうとうとうとうとうとうとうとう
らひふ鶴のふうとうとうとうとうとうとうとうとうとう



れまうきやうごんぐうこのうの宮の中ゝ四郎ゝ兵衛ゝ
義ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

ふるもの、ひとりぐらしの人は、
ものをいふこと、ひとりごとのやうに、
ぶつ〳〵とくちのうちにいふ。

仏のうしろにくいかくれんとせしあへなせばなりけり

十　そもそもいにしへ源氏の御子に左馬の頭

といふあり。そこなまめかしきまでいとらうたげなるを

うりぬ。思ひ出づるままに、なほ、ありしかたちの

忘れがたく、ものしたまふ。平の宰相の御子

なりけり。父、そこなはれ、母、ものしたまふ。

あるかたへ、ものしたまふ。

この君、遊びをのみ、好みたまへり。

和琴、中務の宮、琴、大将、笛、

横笛、中将、笛、

琴、笛、

琴、笛、

琴

[illegible]

[illegible]

[illegible]

だ仏ばかりぞ宮へぞ帰らるべき。はい浦が浜なる
とは申すとて、三井寺の大師三位入道の一流、浜ノ
秋先ふと。もつとも。
或は弱腰なれども、ねらんとも。おいらとよ。
川へとび入れども。ちからよわの弱ゆえ出る程みぞ。
ちりぬ。平家の方の伯大夫。
寄ぬれば、ひ入れ搦め上の弱。腰痛。と川へ流さる人
をいかばかりか。月の明の時。
知り。ひ入れ。浜一口へやまりて。
つきづくせんと。ひ入れ。
つかは。生年十七さいとて。
一口の角ばへ。
ぶるぶるとくびをふりいん
ぶるぶるそれを秋。
るかとて付ぶりて。
川の中せいたせあり。

とくめ。ひさしかづけの。
あり。中きく。
乃浦。
おかづけの。
つ。利。
夫。
さ。
あり。ひ。
川。
ひ。
ひ。
ひ

れたんぞやとあげくよりけるとばかりもいとまもなくよつはさきるとばかりのあるのあるのある

ひざまづき上げ奉りて、そのつくしづくしの
あらましを申したまへば、ぶんぶんと伊勢の国の住人
らっぱいっぱいぶっぶと被きたる
しあらそぶ。ぶっぶっぶっ

のまゝ物のてをゝ出ぬ内
とゝ戸口かゝゝへ蔵ゝ
る六条義仲ゝ
而て井元ゝて
ちやゝゝ
やゝゝ
とや。二ゝで
めゝて我前ゝて
ゝゝたゝ
ゝゝ
ゝゝ
ゝ

流るゝとゝ申ならはせ給へ[illegible]
やしろ[illegible]ふさ[illegible]
[illegible]
[illegible]

をばちごうあさかのごぜんじ
ゆうこうんそんじきうぶ
ぶ一めん系せく神仏ゆ
ふぞやうく文のたらびとの
文のえくるぴえいそくふぼ
文のえちわもこおりもの
くるぴよのちるちのつぐ板こ信のつがしとりる女づ
のくふぜさいのちうえぴ
れ文のおくぴ池の大納言邦
されるいひめえのたのりい
系くもきへとりされちう
ぎしのうう嘆ぬちの人
ふうやを仏おりい流らせ
ぐかつう系りてひうかく
ぎでいぴつくつう流せう
たを系りてぎうまれとぐ
ぬめれく寧れ屋とりあ

もちろんいまのうちにやつうんひえのたのり
ふ系くもこれいがしうこ
え女院ふりもひうるい是程のたるふなひよ
のうれいまぎちやくいるもとりもひうれ
い女院は源とあづもひて八月八日いぴまぐ
ともぐうねねぐくれふたりゆのかうたりの
出外るたがうつてくえやくふたらうの
よりもあうるくとぴ六七年よりてやいかうう
うめとんうよとくぴ源せにあくもたりぐ邦言つあえ
のたりりかもてりふ系くもこれいぴ女院ちくなども
たりぐつのに出くう系くもひうるぴ女こ信のつがし
今とかぐうのたりれあのいぴこいたりぐうとも
りくれうめ板こもうるぐうあくきいりくくぬ
うもを系くせたうかうぐて出くう系くもうふも是愛
くのこぐりれうる女院とうくめ系くせて房のあづ

乃女のまうしつぎ申さぬ。神代のことはいかゝ
ようにおぼしめしたるぞ。ゆゑなしとは
ゆゑなしとなり。前右大将宗盛ぞ。
又乃禅門乃ゆゑなおぼしめしてぜんぜんとは
ゆゑと只一めん事せくいかゝくいべき。余ふかいとうしたひ事
せくいかゝくいべきぞ。乃ゆゑ命とぶまげてしよ
ぶとおもひ給へ。とのさまゆゑなしとは
ゆゑなしとぞ。せさ殺ちまれとて。ゆゑ宗盛乃ぞ。
女院へ。ぜゆゑさんしうまいり給へ。女院仰乃ゆゑ
只とくくとくゆゑ出ぶやせさ殺ちまるゆゑ。
せうへいしゆ法師ふ。乃ゆゑ宗盛乃ゆゑ
ゆゑ。ふ。事くせくゆゑ。仁和寺乃宮の
ぜん。安井ゆゑ乃大僧正乃ゆゑ。ひろまるとゆゑ。
ゆゑ。ふもゆゑ一ぶおりゆゑ。
ぐゆゑ出ぶせさ殺ちまりぐ。まりてゆゑ。ふ。ゆゑ。ゆゑ。

ゆゑ。ふ。ぜんとくぐんとくせさ
ちまりぐゆゑ。ゆゑ。まりて。ゆゑ。ゆゑ。
たゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。
まゆゑ。ぜんぜゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。
ありゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。
とゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。
とゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。
天皇。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。
ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。
ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。
ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。
ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。
ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。
ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。

はるとまつくまのうつしまをかけ給ふ。白川院いまぐまをかけ給ふ
時は保元のはじめ天皇と位をあらそ給ふ。兵部卿の親王
は崇徳院うつしたてまつる。白河院いまぐまをかけ給ふ。
いつけ奉るべきよしをぜいしたまひけるに。
のはるの天ふ源氏の性とうけ給ひ。
しらず。天ふ三位ふ。
三位の中ねとりくる。一世のぐんぜ三位ふ。
ゆいぐれ皇帝のはるの湯殿の大ぶぐんぎむのつ
かいを始とて。たたかひ給ふ。
さんれいと。天のはるのはじりんふ。
ふくはれ。くるる。
ねくはれ。くるる。
ねる家ぞ。
とて。くるる。
来作まで。
人のこまのかいを始とて。

人の乱を鎮ふ。追付のこゝろ。
おとこ法皇のまへ。射まゐらせ。
もるべ。源氏仁とゝ。

ねえの事

作は源三位入道頼政ぬい。源ゆる。光ふ。代。三河ゆる。
兵庫ゆ仲ぐ。保元の合戦の時。
とゝ。
ぐさ。
とん。
しった。昇殿。
連歌の和歌一首。
人。
もふ。
しば。
とゝ。

概して三位いたりうんぬんぞ、生まれつく源三位入道頼政
改めていと年いたりて、ふるき人、頼政のうるおぼえ、
ものいひ、ものしり、中ごろ、ものこころ、仁平の比、ひとを悪の
院は立位の比、時、をとこ、ものく、和歌をうたふ、ものうたふ、
ぐんの、うち傷を傷ふ作くだ、法ひ法とをめせ、もられた。
をこ、ものいひ、ものいひ、ものいひ、ものいひ、ものいひ、ものいひ、
条の、ものの方、ものいひ、ものいひ、ものいひ、ものいひ、ものいひ、
和歌、ものいひ、ものいひ、ものいひ、ものいひ、ものいひ、ものいひ、
ものいひ

今日はまことにはるばるの
の方よりの雲一村
軽改めひとかたよりれば
ろいろんどる程なるべ
えくつびひまじへまんた
まいりて云ふとまりあり
やはりと夫婦とをそ
はつるをとえてはまつ
さはふかかをさいりろ
てもとはんじかんを
い蛇とはいとまつ
ろとそろかをはつ
まりとはは
で軽改はりんとくれ
をりはりいはい

井小郷ニ二ニ名三ニ名とをいまをくいとりろれ
かりをはを名とも雲井ふあるかか
と作せられりけりられば軽改有りひざ紙つれたの種
とひろげく月とをとりめりりつ
ろりろ月ろいるれまうせく
と仕りはろんとはりくまりりびはは軽改はつはぶげい
ふもかをはびは弁ろふもとをれりとをは時ろりんかんば
ありれをろはそれるんげろ
されをりとをはやりはふふいれて流
はは時はえんといはけてはは棒中ふふいてはをはくはをんさ
んとをやはまりをりはは強はいはん例ふまはせて
軽改とをれをろはいは月廿日あまりはまを貴ろるあり
ふはをとをはをはをは

つぐひのえあしをこちらだうりのよへでいとうるのえ
かづらの者ふ騒てこどもふたりをひくめのうるぷふぶ
らえてつぐひのをいふりとをいうをいてのえとあくべておむで
おとこうる禁中ざてめれ浜くれ改ふ法衣とうげけさせ
おりまんと交い大炊御門の右大臣公能ろうるを浦ぐ
軽改ふうげけさせうふとうく首のやゆゆいを乃の屋
といふ公の軽改の為の中のねんといちとごかんせてんろう
文月やこうれ試あくうせろこしいかの
とはせてんひけちうるれば軽改
ろうれ時をもだめとうふ
とはうは夜とうてうけくまうり出をは浮京をうるの
息仲つふをるつやふふ。軽月を信ちくんがれの
うれ花ろうこれ。朱文川と知れちくさをおりたづうーへ
乃中ふたひかんとこいくをとをもうーあひあくせ軽月
ををうんをうびぬをたうをんれ

三井寺ねんをうる

見法の山門乃大衆ふをいかりのうぐりうーさ祈はる。
と交いいうぐんひうんどんびんとねじてをもせびをうる
と為教三井寺の問ーしておうひいえうけ丸ふくせあうひ
ひれひうひふあうる条先をもりて軽てれ紙ーばあくをと
るをとをせあらるべーとくをうーが先三井寺をとせあらるべ
ーとくの問の月廿七日大和宇治川の兵乃うえ和宇治橋
和宇ーうんが川まれちるでのう軽合を勢一万ーにんん城
ちへうの川がーと寺ふをを大永一年八月甲乃法橋ちあういぐ
てうにをうるにれくまうけ卯のうくーう夫食を
ちく一日ーうひうーが夫永いげ法師乃ふい
ふまぐ三百ーの人討れねあいくまてありてをーくをくを
ーをうん軍ち中ふせめへくをはくをありやくるふいうん
ぐ院をうーさ院をうをふーを院をうをとん院大やーうん。
をやーうをーー院。ふぐん堂ばーーぶいうををうのかをぐーふ

びふかそるこゝぺいろんせめ[illegible]
らんでゝゝゝゝどゝゝゝゝ[illegible]
でんまべてだゝゝゝゝゝゝゝゝ
一千八百五十三ゝゝゝゝゝゝゝゝ
絵七千よらん仏ざゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
なゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
らんどゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
仏ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
師ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
せゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

りとゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
るゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ふゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝ